

聖マリアンナ医大新聞

聖マリアンナ医科大学・新聞編集委員会 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1

044-977-8111(代) 総務課

http://www.marianna-u.ac.jp

主な内容

新年のごあいさつ / 春夏秋冬	(第1面)
新春によせて	(第2・3面)
研究者紹介 / 教室・施設紹介 / 他	(第4面)
前田賞授賞式	(第5面)
創立者等追悼ミサ / 繼灯式 / 他	(第6面)
第68回東日本医科学生総合体育大会 / 他	(第7・8・9面)
寄付金 / 臨床研修センターだより / 他	(第10・11面)
附属病院・施設だより / 他	(第12面)



新政権への期待

理事長 明石 勝也

皆さま、新年あけましておめでとうございます。21世紀もすでに四半世紀を超え、新しい年も我々にとって更なるチャレンジの舞台となりますよう頑張りたいと思います。

さて、昨年は我が国初の女性総理である高市政権が誕生しました。新政権の掲げる政策の三本柱は「物価高・生活支援」「成長・安全保障」「税制・社会保障改革」ですが、医学における研究開発や医療制度改革など、本学にも関連深いポイントが数多く含まれています。特に経済成長の中心となる17の戦略分野には「合成生物学・バイオ」「創薬・先端医療」が明記され、具体的な項目には再生医療、細胞医療、遺伝子研究も含まれています。ここ数年はあらゆる分野の研究開発予算も削減が続いておりましたが、ようやく成長戦略に医学研究が貢献できる機会が訪れることがあります。大学や研究機関にとってはチャンス到来と言えるでしょう。

また生活安全保障としての社会保障制度、医療提供体制に関しても改革が進められる方針で、補正予算も含めて大学病院への支援の強化が期待されます。

ポストコロナの時代に訪れた、著しい諸物価高騰の影響を受けて厳しい法人収支となりましたが、全教職員の賞賛に値する努力でようやく改善傾向となりました。新たな大学の前進に向けて舵をきれそうですが、政策による支援は、これにかなう成果を社会、国民に還元する責任を伴うことを見逃してはなりません。高度先進医療の提供、先端科学研究の推進、高度医療人材の養成を今年も緩めず進めて参りましょう。

謹

賀

新

年

天馬空を行く

学長 北川 博昭



新年明けましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は新外来棟が本格稼働し、創立50周年事業で進めてきたハード面の整備が整いつつあります。世の中は病院経営で苦戦が続く一方で、AIが凄まじい速度で浸透し、あらゆるもののが数値で解析され、AIに支配されることへの懸念も聞かれます。しかし、使いこなせば業務負担を軽減し、より独創的・戦略的に業務に集中することができます。

私たちが迎える今年は午年(うまどし)です。馬は単なる力の象徴ではなく、古くから心を通わせる人間のパートナーでした。「人馬一体」という言葉は、乗り手と馬が互いの呼吸を感じ、深い信頼関係があつて初めて成立するものです。多くの若手医局員を育てる業務が特定機能病院に課せられれば、その使命をよく考え、それぞれの部署で乗り手と馬が深い信頼関係で結びつけられ、ますます発展していく年になることを望みます。

そこにはAIが弾き出す数値だけでは決して到達できない、心と体の調和、そして「信頼」の姿があります。医療の現場もまた、データやAIによる診断支援の恩恵を受けつつも、最終的に患者さんと向き合い、その苦悩や喜びに寄り添うものは、理念に裏打ちされた人間の心です。今年は、AIやデータという「駿馬」を乗りこなす「乗り手」として、医師としての使命感を自覚し、私たちの原点であるキリスト教的人類愛に根差した共感力と倫理観を一層磨き、その手綱を私たち自身がしっかりと握る一年にしなくてはなりません。専門的研究の成果を人類の福祉に活かすという責務を果たし、「天馬空を行く」がごとく、聖マリアンナ医科大学が力強く飛躍する一年となりますことを心より願っております。

2026

St. Marianna
University
School of Medicine

春 夏 秋 冬

らせん階段

先日父の7回忌で帰省した際、私の通った小学校が統廃合され、閉校式が行われるというポスターを町中で見つけました。弟妹たちはもとより、私の父も通った古い小学

校でした。私が小学校に通ったのは昭和36年からの6年間で、当時日本は高度経済成長の真っ只中にあり、昨日よりも今日、今日よりも明日が確実に豊かになると言える時代でした。

一方、現代は不確実性や複雑性が強く影響し、将来の予測が困難な時代と言われています。この点について私が私淑する

田坂広志先生は、未来を予測するひとつ的方法として、事物のらせん状の発展ということを述べておられます。これはあたかもらせん階段を昇るように、上から見ていると同じところを回っているようでも、横からみると一段上に昇っている、つまり古くて懐かしいものが、新たな価値を持って一段上のレベルで復活し

てくるということを表しており、わかりやすい例として、手紙の文化を挙げておられます。通信手段が手紙から電話へと移り、一時は手紙は廃れてしまうのではないかと思われましたが、IT技術により全く新しい価値を持った手紙、昔とは比較にならない利便性とスピードを持った電子メールとして復活してきました。

今、デジタル全盛期に富士フィルムから発売されているチェキというインスタントフィルムを使用したフィルムカメラもその例かもしれません。もし私が小学生のときに慣れ親しんだ古くて懐かしい事物や文化が、そのままの形ではなく、昔では考えられなかった新しい価値をもって復活し

くるのであれば、それはそれで胸がときめくようなことではないでしょうか。それがどんなものかは、凡人の私には思い浮かびませんが、楽しみに待ちたいと思います。

臨床検査医学・遺伝解析学
特任教授 信岡祐彦

新春によせて



新年のご挨拶

医学部長 加藤 智啓

明けましておめでとうございます。昨年、米価の高騰には皆様も驚きになったことと思います。一昨年5Kgで二千円強であった米価が一年間でなんと二倍半、五千円近くに跳ね上がり、「令和の米騒動」と言われ、今もなお高止まりをしています。海外から安くお米を輸入すればよいとの考えもありますが、その流れが進めば主食である米の自給率を下げることになり、食料自給率が四割弱と大変に低い我が国において、食料安全保障上重大な懸念ともなります。食料自給率を保ちつつ米価が下がることを切に願っております。そして、米に限らず生活必需品を含めすべての物が1、2年前に比べ三割も四割も高くなつたように思います。この物価高騰に所得が追いついていないのは明らかで、その最たる分野のひとつが医療です。

物価高騰に対して診療報酬の伸びはいわば周回遅れともいえる低さで、多くの医療機関で経営に四苦八苦し、医療の供給体制そのものに影響が出かねない状況になっております。大

学医学部も例外でなく、特に附属病院等での医療収入を主要な財源とする私立医科大学にあっては、医育体制の維持充実化にも影響してくることが懸念されます。昨年秋に新しい内閣が発足しました。将来の医療を担う医師の育成という医学部の使命をしっかりと果たすため、診療報酬をはじめとして医療・医育のバックアップ体制をしっかりと整えていただけるよう切に願っております。

本学医学部では、創立以来「良医」を育てるに注力してまいりました。教育カリキュラムでは、人間の一生を支える社会のシステムを学ぶという観点から、第1学年から「早期体験実習」を設け、マタニティクリニック、幼稚園、地域医療機関、高齢者介護施設を順次訪れる実習をしています。

また、第3学年では重症児（者）施設や緩和ケア施設を訪れる実習も行っています。本学学生を受入れてくださっている施設の方々には、この場を借りて篤く御礼申し上げます。第4学年では、医学知識を問う「CBT」

と医療実技を問う「OSCE」からなる共用試験が行われます。共用試験は統括機関から派遣される監督者・評価者と共に行われ、その合否は全国で統一された基準で判定されるなど公的化されており、準国家試験としての役割を担っています。これに合格すると「臨床実習生（医学）」に認定され、診療参加型臨床実習を開始します。医療現場では医療スタッフの一員として医学・医療を学ぶことが求められます。これには教員の熱心な指導と現場職員の理解が必要であり、学外医療施設等にも多大なご協力をいただいております。

特に学外でご協力くださっている方々にこの紙面を借りて感謝申し上げます。今後、臨床実習における診療参加の度合いが一層高くなるように努めていく所存です。

課外活動においては、東日本医学生総合体育大会の開催を始め、コロナ前の水準に回復しつつある状況で、大学としても課外活動を支援してまいります。学生同士の交流が深まることで信頼しあえる仲間が増え

ていくと期待しています。

本学のディプロマポリシーのひとつに「生涯にわたって省察し実践する基礎ができる」という項目があります。言い換れば、「自分で自分を育てていける」ということだと思います。学生諸君にはこの姿勢の重要性をしっかりと自覚してもらうとともに、教職員はじめ周囲の方々には、「自分を育てていける」学生を支援するためにご協力とご理解を切にお願いする次第です。

今年も本学学生の学問成就と本学の発展のため努力してまいります。

よろしくお願い申しあげます。



2026年 新年あけましておめでとうございます

大学院医学研究科長 遊道 和雄
大学院 難治性疾患病態制御学 大学院教授

新年、明けましておめでとうございます。大学院医学研究科の運営・教育にご尽力、御高配をたまわり、感謝申し上げます。本年も、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

現在、国内外において、新しい生活活動、経済活動、そして医学・医療の場においても、社会は全ての側面で「ニューノーマル」が模索され、新しい姿を描き出そうとしています。大学院に集う学生ならびに若手研究者には、医学・医療の領域ばかりではなく、これから新しい共生社会を構築する牽引役としての役割を担っていただきたいと思います。こうしたことを心に留め置き、日々一步づつ歩んでいくことが、まさに本学の建学の精神を具現化することにほかなりません。

本学の大学院医学研究科では、最先端の医学・医療研究を担う基礎医学・臨床医学の専攻分野に加えて、いくつかの新しい学問領域に関する専攻分野も開設し、常に社会のニーズと医学・医療の進歩に適応した大学院教育・研究ができるように整備してきました。さらに、医学統計、英語でのプレゼンテーションスキル、

英語での論文作成能力を習得し、国際的に活躍できる医学研究者・医学教育者・医学に係わる高度専門職業人として生涯成長しつづけることができるよう育成していきます。また、社会人を対象とした大学院進学も推奨し、社会のニーズに対応していく、新しい働き方改革にも沿うように常に情報収集に努め、組織・制度改革の要否を検討しております。

このように、医学・医療ならびに社会の進歩を常に見据え、専攻分野や大学教育のあり方・あるべき姿を常に検討し、改正に努めています。大学院に集う全ての研究者が、円滑に研究活動を遂行し、得られた知識を有効に活用して社会還元に繋げていただくことを期待しております。

今後とも、自立した研究者として医学に対して積極的な研究意欲のある者、探求心を不斷に持ち、国際的視野に立って医学を研究できる者、新たな知見や技術を理解・吸収し、自ら成長できる者、豊かな人間性を持ち、人類社会に貢献できる者に広く門戸を開き、大学院への進学ならびに研究活動を推奨していきたいと存じます。皆様がたの更なるご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

大学病院 病院長 大坪 耕人

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えいただいたこととおもいます。

聖マリアンナ医科大学病院は昨年の年末年始期間中に外来の移転を行いました。新外来棟は旧病院別館を改修した建物と5階建てのエントランス棟により構成されております。

エントランス棟には2階にはタリーズコーヒー、3階にはセブンイレブン、4階には聖堂、介護ショップ、理髪店、がん相談支援センター、5階にはMUJI カフェが配置されております。外来棟は1階から6階まで各診療科の外来が配置されております。既存の建造物を改修したため当初より待合スペース確保の問題がございました。その対策として、マリアンナアプリの導入をお勧めしております。このアプリはいわゆるPersonal Health Recordといわれるもので、すでに13,000人以上の方がご利用されております。具体的には、ご自分の画像診断、検査結果、投薬内容など診療情報の共有のみならず、診察待ちの順番を確認することができます。この機能を利用することで順番がくるまで診察室前以外の場所で過ごす

ことができます。このほか駐車場の混雑状況や、大学病院のご案内をはじめ様々な便利機能が搭載されております。また、診察終了後会計を待たずに済む後払いシステムとしての『らくーだ』も以前より導入しております。

全国の病院の経営状態は、物価の高騰に伴う医薬品・医材料費の高騰や人件費の増加に見合う診療報酬が設定されていないため、極めて厳しく収支が赤字の病院も多くあるといった状況です。そんな中当院は教職員一丸となった努力の結果、何とか黒字経営を維持することができております。教職員のご尽力に心から感謝申し上げる次第です。

旧病院本館は現在8階部分の解体が終了しようとしています。全ての整備には後1年半ほどを要し、それまでの間ご不便をおかけすることと思いますが、当院は特定機能病院・地域の中核病院としての役割を果たすべく今後も精進を続けて行く所存です。

新春によせて



2026年 新年のご挨拶

西部病院 病院長 明石 嘉浩
循環器内科学 主任教授

新年あけましておめでとうございます。2026年の幕開けを、ここ聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院で皆さんとともに迎えられることを、心よりうれしく思います。院長として初めての年越しを迎える、あらためて地域の皆さまの健康を守る使命と、職員一人ひとりの努力に支えられた病院であることを実感しています。

昨年は「安心と信頼の医療を届ける」というスローガンのもと、地域医療の充実と医療安全の向上に力を注いだ一年でした。地域の医療機関との連携推進や救急受け入れ体制の強化、多職種による協働の深化など、皆さんの現場での真摯な取り組みが、地域に選ばれる病院の礎となりました。特に医療安全の面では、一人ひとりの意識と行動が患者さんの命を守り、安心を築くことで改めて確認できた年でもありました。

西部病院を取り巻く環境は、今まさに大きく変化しています。昨今のニュースでも医療機関を取り巻く厳しい現実が報じられていますが、病床稼働率に対する意識改革など、皆

さんの日々の努力によって確かな前進が見られます。時代が変わっても、地域の方々に寄り添い、安全で質の高い医療を提供するという私たちの使命は変わりません。医療安全文化をさらに根づかせ、職員が安心して働く環境を整え、患者さんが安心して受診できる体制をともに築いていきたいと思います。

2026年は、皆さんとともに掲げた病院のビジョン「人と地域のいのちを支え、確かな医療で未来を築く」を具現化していく一年です。翌年に控える国際園芸博覧会(Green × Expo 2027)に向か、開催地から最も近い医療機関としての責務を果たすべく、しっかりと準備を進めてまいります。

皆さまのご健康とご活躍を心より祈念し、新年のご挨拶といたします。



混迷する社会情勢の中で

多摩病院 病院長 長島 悟郎
脳神経外科学 教授

新年あけましておめでとうございます。今年も、皆さんにとって、価値ある1年になることを、心から願っています。

昨年10月、維新との連立という形で何とか高市政権が動き出しました。国際的にも国内的にも課題が山積している中で、どのような舵取りをしていくのか注目が集まっています。これまで公明党が担ってきた国民に対する大きな責任を、はたして維新が担えるのか、不安が残ります。企業献金などを含めた政策協議で決裂した場合には内閣不信任案可決から一気に衆議院解散に進み、創価学会の支持を失った自民党が解体の危機に瀕する事態にもなりかねません。国際的には、日本の政治的混乱を虎視眈々と狙っている国々もあり、日本としては厳しい1年になりそうです。たぶん、円安はさらに進み、人件費はさらに上昇し、食材やエネルギーなど輸入に頼る物価は高騰し、潰れていく医療機関は後を絶たなくなるかもしれません。川崎市立多摩病院は聖マリアンナ医科大学が指定管理者として運営しているとは言つても、川崎市立病院の一翼を担う公立病院であるため、全国公立病院連盟や全国自治体病院協議会にも参加しています。急速な人口減少の煽り

を受けて、地方の公立病院は瀕死の状態に陥っています。医師がいない、患者が減る、委託業者が撤退する、行政の予算も枯渇しつつある、それでも閉鎖することはできない、それでも公立なので給料が減ることはない。こうした医療機関に比べると、当院への行政からの補助は減価償却費程度に限られ、それでいて不採算医療を行うことを求められ、給与は市立病院より低く、そんな中で必死に市民のための質の良い医療を提供するという、厳しい条件が揃っている中で、昨年は教職員が本当に必死に頑張ってくれたと思っています。大学が指定管理者として運営する公立病院は、地域包括ケア病棟が中心の42床の宮崎市立田野病院、250床の金沢医科大学氷見市民病院、そして川崎市立多摩病院の3つしかありません。アカデミアが市立病院で市民目線の医療を展開するという、市民にとって得難い医療提供体制を発展させなければさせるほど、周りからの批判的意見も増えています。そうした意見にひるむことなく、今年もしっかりと、市民のためのより良質な医療を求めて、馬車馬のように進んで行こうと思っています。

皆さんの、温かいご支援を、宜しくお願い致します。



看護の未来を担うために、日々を生きる

看護専門学校 校長 鈴木 昌子

今年度、日本看護協会は「看護の将来ビジョン2040」として、看護がめざすもの、あるべき看護の実現に向けた戦略、さらに看護職が活躍する基盤となるものを示しています。これらは日本の社会の変化を見極め、取り組むべき看護職の課題と課題達成に向けた努力を記載していると考えます。

社会の変化に飲み込まれず、私たちがとるべき行動を具体的に考えてみたいと思います。

まず人間の営みの基盤となる普遍的なものが何か知る必要があります。それは日常を真剣に懸命に生きることだと思います。京セラの創業者である稻盛和夫氏が著書「生き方」の中で「今日を完全に生きれば明日が見える、充実した一日の連続が、五年たち、十年たつうちに大きな成果に結実する」と述べています。この教えが時代を超えた普遍的真理であると考えます。

「看護の将来ビジョン2040」の実現のため看護職が活躍できる基盤として示されているのがウェルビーイングの実現です。看護職一人ひとりが身体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態で過ごすことへの職



内外合一・活物窮理

ブレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック 院長 福田 譲

新年、あけましておめでとうございます。平素、当院に多大なご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

2025年12月より、形成外科松本洋主任教授のご支援で当センターに形成外科が加わりました。

「内外合一・活物窮理」は華岡青洲の有名な金言です。華岡青洲は、1804年(文化元年)10月13日、世界で初めて通仙散内服による全身麻酔下での乳がん摘出術を行いました。

「内外合一・活物窮理」には様々な解釈があります。一般的には、「治療に際しては外科と内科を区別せず、患者自身の病気を深く探求すべきである」と、解釈されています。また、「内科は漢方医学、外科はオランダ医学」と解釈する人もいます。

この言葉には、外科という枠にとらわれず、患者さん一人ひとりにあつた医療を行うという、現代医学と共に育む華岡青洲の医療哲学が示されています。

2012年3月、「乳がん手術における根治性と整容性の追求」を目的として、日本乳癌学会と日本形成外科学院共同で、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会が設立されました。聖マリアンナ医科大学は、

この学会の中心的施設として高い評価を得ています。今回、当センターに形成外科を開設して、乳房再建外来を開始することにより、大学とセンター両施設の特徴を活かして、さらに質の高い乳がん医療を提供するとともに、患者さんの利便性向上を図ります。また、一般的形成外科診療を行い、麻生区を中心とした地域医療に貢献します。

「乳腺外科、形成外科合一・活物窮理」の精神で、個々の患者さんにあつた治療を行うとともに、当センターを若い乳腺外科医、形成外科医の教育や実践の場にしたいと考えています。

当センターでは、乳がんの診断、治療、看護、検査などの各分野で、最高のスタッフが外来診療を行っています。ここに形成外科を加え、乳がん患者さんに対するワールドクラスクエアをさらに追求していきます。

今年も何卒よろしくお願ひいたします。

場風土の醸成、国民における社会的理解の浸透を目指していくとしています。この実現のために看護を取り巻く環境を整えていくことが絶対条件です。

しかしそれだけでは看護職個々の本当の満足、幸福には結びつきません。具体的には自らの行動に対する批判的な問いと真実に向き合う勇気をもって毎日を真剣に懸命に生き、それを積み重ねていくことです。それが看護師としての成果を具現化していくことにつながります。つまり高い自律性を持った専門職としてその役割を体現するということです。これが初めて個々のウェルビーイングが実現すると思います。

2040年、看護職の中心として活躍する看護学生の皆さん、自身のウェルビーイングを実現し、それを基盤として「看護の将来ビジョン2040」の達成に向け、日々を真剣に懸命に生き抜いてくれていることを心から祈ります。

研究者紹介

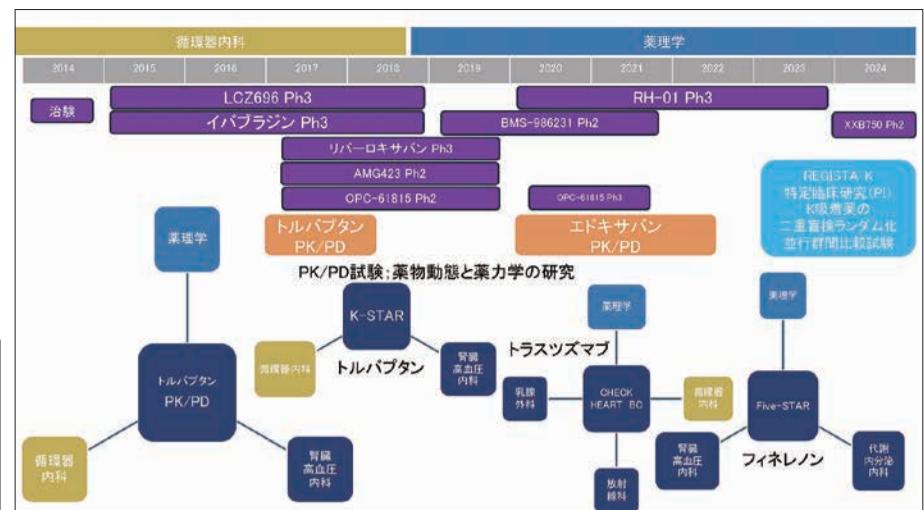
研究も個人からチーム、単施設から多施設、創薬から育薬、実施から審査

薬理学 主任教授 木田 圭亮



循環器内科時代には、臨床において2008年にハートセンターで全国に先駆けて心不全チームを立ち上げ、多職種によるチーム医療を実践してきました。また、2013年にはU40心不全ネットワークを設立し、全国の同世代の若手から中堅の医師とともに心不全に関する臨床研究を実施してきました。特に多施設での急性心不全の前向きレジストリー研究 (REALITY-AHF) では、コアメンバーとして研究に参画し、短期間で多くの心不全症例のエントリーができ、さらに医療統計の専門家が入り、複数のサブ解析が同時に動くという、単施設では味わえないスピード感と多施設共同研究ならではのチームビルディングの重要性を感じました。その後、神奈川県内での多施設共同研究であるK-STAR (トルバブタン)、BEYOND (カルペリチド) も非常に良い経験に

なりました。特に利尿薬のトルバブタン PK/PD 研究は循環器内科と腎臓高血圧内科、そして薬理学による学内共同研究で、一つの薬剤の薬物動態と薬力学の研究について方法論も含め深く知ることができ、その後の直接作用型経口抗凝固薬 (DOAC) であるエドキサバンのPK/PD研究にその経験が生かされました。心不全の新薬であったサクビトリルバルサルタン (アンジオテンシン受容体ネブリライシン阻害薬; ARNi) は日本での発売が欧米と比較し遅れましたが、発売初年度の1年間のデータを後ろ向きに収集したREVIEW-HFと前向き研究の非盲検並行群間比較試験 PREMIER study の両方にコアメンバーとして参画しました。欧米の先行研究が多くある中で、日本独自の視点で一つの薬剤の後ろ向き観察研究と前向き介入研究が実施できることは大きな経験となりました。そして、両試験とも全国の心不全を研究する仲間と共に研究することができ、私はすでにU40は卒業してい



ましたが、U40時代のレガシー効果であったと思います。

また、これまで心不全を中心に治験にも関わってきました。治験はまさにチーム医療の実践の場であり、治験担当医師をはじめ、薬剤部、治験コーディネーター (CRC)、事務など多くの部署と仕事をすることになり、ある意味で臨床の応用編と言えます。新薬が世の中に登場するまでの経緯を身近に触れることができる、創薬のプロセスを経験することは非常に大きいですし、またその新薬を臨床で使っていきながら、その薬剤を育てるという意味の育薬、どちらも大事です。

そして、研究には必ず倫理審査があります。私は幸いなことに臨床試験と治験の両方ともに審査委員をす

る機会に恵まれました。研究を立案する、実施する側だけではなく、審査する側になることで、別の角度から研究を見ることができ、さらに自分の専門以外の分野の研究方法を知ることもでき、大変良いトレーニングになりました。

これまでの経験から現在では心臓や腎臓リハビリテーションの多施設共同研究にまで活動の場を広げています。今後は、循環器や薬理学領域に関する宇宙医学やスポーツ医学分野の組織作りも考えています。一方で、学内に目を向けると研究面での課題も多いため、これからオールマリーンでの研究環境の変革を進めていきたいと思います。そして、次世代の研究者の育成にも力を入れていきたいと考えています。

受賞・表彰

令和6年度 ベストティーチャー賞

教員表彰選考委員会 委員長 池森 敦子

本学では、医学教育の実践に顕著な成果を上げた教員の功績を称え、併せて全教員の教育意欲と能力向上を目指し、令和2年度より教員表彰制度を新設し、今年で5年目となりました。令和6年度のベストティーチャー賞は、講義部門で第1~4学年に配当された講義担当教員から各学年5名、実習部門で第1~4学年に配当された基礎系実習の担当教員から各学年8名、第6学年に配当された臨床系実習の指導教員8名が、



各部門受賞者・講座（受賞者は1・2位のみ掲載）所属は令和6年4月1日現在

【講義部門】

第1学年 第1位 有戸 光美 (生化学)	第2位 土屋 貴大 (生化学)
第2学年 第1位 洞下 由記 (産婦人科学)	第2位 木田 圭亮 (薬理学)
第3学年 第1位 足利 光平 (スポーツ医学)	第2位 徳田 直人 (眼科学)
第4学年 第1位 本橋 隆子 (予防医学)	第2位 人見 敏明 (予防医学)

【基礎系実習部門】

第1学年 第1位 井上 一歩 (機能組織)	第2位 大神田 敬 (微生物学)
〃 星野 敬吾 (人体構造)	〃 佐藤 政秋 (生化学)
第2学年 第1位 有戸 光美 (生化学)	第2位 太田 有紀 (薬理学)
第3学年 第1位 廣井 準也 (機能組織)	
〃 右高 潤子 (機能組織)	
第4学年 第1位 本橋 隆子 (予防医学)	

【臨床系実習部門】

第1位 家 研也 (総合診療内科学)	第2位 伊澤 直樹 (臨床腫瘍学)
--------------------	-------------------

乳腺・内分泌外科学 講座

教室・施設紹介

30

High-QOL (Quality of Life) を 指した乳がん治療

乳腺・内分泌外科学 主任教授 津川浩一郎

現在乳がんは日本人女性において最も罹りやすいがん種であり、死亡者数は4番目に多いとされています。40代から60代前半の働き盛り、家庭でも要となる世代の女性ではがん死亡の第1位であり大きな社会問題といえます。

乳腺・内分泌外科学講座では大学病院、ブレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック、川崎市立多摩病院、横浜市西部病院にスタッフを配し、乳がん治療に全員が全力投球しております。おかげさまで所在地の神奈川県川崎市ののみならず、横浜市、東京都、さらには全国から多くの患者さんに来ていただいている実績があり、聖マリアンナ医科大学病院での乳がん症例に対する年間手術件数、700~800例は全国の施設の中でも常にトップクラスです。精度の高い診断に基づく、根治性・整容性・安全性に優れた手術を行うことで、手術後にもそれまでと変わらぬ人生・生活を送って

いただく、High-QOLを目指した乳がん治療を実践しています。薬物療法も専門分野の一つとして積極的に行っており、例えば、トリプルネガティブ乳がんという従来予後不良で適切な治療が乏しいといわれていたカテゴリーも、免疫チェックポイント阻害剤を用いた術前化学療法を行って著しい効果がみられ、予後成績も飛躍的に改善しています。さらにがん治療は集学的治療が必須でありチーム医療が欠かせません。形成外科、産科婦人科、腫瘍内科、緩和ケア科、放射線診断ならびに治療科、病理診断科、遺伝診療部など関連各科・部署には本当にいつもお世話になっており、この場を借りて御礼を申し上げます。

医療の世界は日進月歩です。常に新しい知識・情報を収集し、High-QOLを目指した乳がん治療をさらに追求していく所存です。今後とも乳腺・内分泌外科学を何卒よろしくお願ひいたします。



前田賞

第18回前田賞授賞式

10月31日(金)、第18回前田賞授賞式が執り行われました。前田賞は、本学第3代理事長・故前田徳尚先生が私財をもって創設されたもので、本学教職員の優れた功績を顕彰し、士気の高揚を図ることを目的としています。本年度も多様な職種から多くの応募が寄せられ、厳正な審査の結果、5名の教職員が受賞されました。

式典の冒頭では、明石勝也理事長より、前田先生が生前に本学を深く愛され、教職員一人ひとりの活躍を心から喜ばれていたお人柄や、本賞創設に至る経緯が紹介されました。続いて、鈴木宣男・前田賞選考委員長(総務担当理事)から、選考経過の報告がありました。



上村 悠 (血液・腫瘍内科学) 講師

JAK1/2 Inhibitor Ruxolitinib for the Treatment of Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: A Phase II Study
(邦題: JAK1/2 阻害薬ルキソリチニブによる全身型慢性活動性EBウイルス病の治療: 第II相試験)

この度は素晴らしい賞をいただき誠に光栄に存じます。私の研究テーマである慢性活動性EBウイルス病(CAEBV)はEBVがT細胞やNK細胞に感染・増殖することで炎症症状を起こす疾患です。先行研究ではCAEBVのEBV感染細胞でSTAT3が恒常に活性化し炎症症状を引き起こすことに加え、ルキソリチニブがSTAT3の活性化を抑制し、炎症性サイトカインの産生を抑制することがわかっています。根治療法は造血幹細胞移植ですが、移植時に炎症症状がある症例の予後が悪く、いかに炎症を制御するかということが重要な課題でした。そこで私たちは

CAEBVに対するルキソリチニブの効果と安全性を評価するため医師主導治験を実施しました。本研究の結果からルキソリチニブはCAEBVの炎症症状を改善し、移植成績の向上や生命予後の改善が期待されました。

本研究に携わり私はPhysician-Scientistになりたいという志がより強固になりました。診療のみならずより一層研究に力を入れたいと考えております。また、今回の受賞は、私の力だけでなく当科のスタッフをはじめとした本学の職員の方々のお力添えによるものと感じており、感謝申し上げます。

川口 敦 (小児科学 小児集中治療) 教授

Prevalence,management,health-care burden, and 90-day outcomes of prolonged mechanical ventilation in the paediatric intensive care unit (LongVentKids): an international, prospective, cross-sectional cohort study
(邦題: 小児集中治療室における長期人工呼吸の国際多施設横断および前向きコホート研究)

この度は、栄誉ある前田賞を賜り、心より感謝申し上げます。本研究「LongVentKids国際共同研究」は、28か国158施設の小児集中治療室から2,700例以上の長期人工呼吸管理症例を集積し、その実態と転帰を明らかにした世界初の国際前向き研究です。多くの仲間や施設の協力により、『The Lancet Child & Adolescent Health』誌に成果を発表することができました。

本研究を通じ、重症児の人工呼吸

管理における多様な実態と国際的な課題を実感しました。今後は得られた知見をもとに、国際ガイドラインや臨床研究の発展、教育・研修体制の整備に貢献していきたいと考えています。

この受賞を励みに、聖マリアンナ医科大学が掲げる「生命への畏敬」の理念のもと、子どもたちの生命と未来を支える医療の質向上と学術的発展に一層努めてまいります。

受賞者スピーチでは、それぞれが喜びと感謝の気持ちを述べるとともに、日頃の業務や研究への取り組み、今後の抱負について熱意をもって語り、本学の発展に寄与する姿勢を示しました。

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度以降開催を見送っていた祝賀会を、教育棟1階マリオンにおいて実施しました。

祝賀会には、これまでの受賞者(2020年度~2024年度受賞者)も参加し、受賞者間の交流が活発に行われるなど、終始和やかな雰囲気のうちに終了しました。

仁平 直江 (大学院 応用分子腫瘍学) 特任講師

Nuclear PD-L1 triggers tumour-associated inflammation upon DNA damage
(邦題: DNA損傷下において核内PD-L1は腫瘍関連炎症を引き起こす)

この度は、栄えある前田賞を賜り、心より嬉しく存じております。故・前田先生、並びに選考委員の先生方に、深甚なる感謝と御礼を申し上げます。

受賞の対象となりました研究は、がん免疫に関するもので、悪性度の高いがんによって引き起こされる炎症の仕組みを明らかにし、その知見をがん免疫治療へ応用する可能性を探究したものであり、EMBO Reports誌に掲載されたものです。

研究を進めるにあたり、本学の先端医学研究施設における充実した研究環境、ならびに多様な実験機器の

恩恵を受け、日々の実験を滞りなく進めることができました。改めて、本学の恵まれた研究基盤に深く感謝申し上げます。

また、昨夏より本学ではがん基礎研究のコンソーシアムが発足し、私もその一員として参画させていただいております。ベッドサイドを意識した基礎研究を進めることは、今後も私にとって大きな課題だと感じています。この貴重な機会を活かしつつ、Bench to Bedを志向した基礎研究を本学において展開してまいりたいと存じます。

野田 龍之介 (腎臓・高血圧内科学) 助教

Machine learning-based diagnostic prediction of IgA nephropathy: model development and validation study
(邦題: 機械学習に基づくIgA腎症の診断予測: モデル開発・検証研究)

この度は、輝かしい伝統を持つ第18回前田賞を賜り、身に余る光榮であるとともに、深い感謝の念でいっぱいです。明石理事長、鈴木委員長をはじめとする選考委員ならびに常任役員の皆様に、心より感謝申し上げます。

受賞対象となりました研究は、「機械学習(AI)技術を用いたIgA腎症の診断予測モデルの開発」です。IgA腎症は、末期腎不全に至る主要な腎疾患の一つですが、その確定診断は出血などのリスクを伴う侵襲的な腎生検に依存しているのが現状です。

そこで私達は、患者様の負担を軽減するため、日常診療で得られる血

液・尿検査のデータのみを用いて、AIが高精度にIgA腎症を予測するモデルの開発に取り組みました。本学の1200名を超える貴重な臨床データを用いることで、従来のモデルを凌駕する高い診断精度を達成できました。本研究の成果は、腎生検の適応判断を支援し、早期治療に貢献できるものと期待しております。

今回の受賞を励みとし、今後はこのモデルの実用化に向け、さらに研究を推進してまいります。本学の理念である「生命の尊厳に基づき人類愛にあふれた医療人」を目指し、一人でも多くの患者様に貢献できるよう、一層精進いたします。

望月 文博 (耳鼻咽喉科学) 講師

Microbial alpha diversity in the intestine negatively correlated with disease duration in patients with Meniere's disease
(邦題: メニエール病患者における腸内細菌叢のアルファ多様性と罹病期間との負の相関)

この度は、栄誉ある前田賞を賜り、心より御礼申し上げます。本研究は、メニエール病における腸内細菌叢の変化を初めて明らかにしたものであり、多くの方々の支えによって実現した成果です。日頃より温かくご指導くださる耳鼻咽喉科医局の皆様には、研究を継続する力を与えていただき、深く感謝いたします。

研究の着想段階から方向性を示してくださった小森主任教授、そして前庭医学の基礎から臨床まで幅広くご指導いただいた肥塚名誉教授には、研究者としての基盤を築いていただきました。また、免疫学・病害動物学教室の清水特任教授、宮部主任教授には、国際的な視点と高度な解析技術をご提供いただき、研究の質を

大きく高めいただきました。

本研究は新規性ゆえに査読過程で幾度もリジェクトを経験し、そのたびに議論と検証を重ねました。Scientific Reports誌への再投稿時には、厳しい査読意見に対しリバトルレターを通じて科学的根拠を丁寧に示し、理解を得て掲載に至りました。このプロセスは、苦労であると同時に研究者として成長する重要な機会となりました。

本成果がメニエール病の病態解明と新規治療の発展に寄与し、本学の学術的価値向上に繋がることを願っております。今回の受賞を励みに、今後も臨床・研究双方で精進してまいります。

受賞・表彰

名誉教授授与式

令和7年7月2日(水)に、名誉教授授与式が執り行われました。名誉教授の称号は、長年にわたり本学の教育・研究・診療等の発展に多大な貢献をされた先生方の功績を称えて贈られるものです。

今年度は、生理学(細胞・器官生理) 舟橋利也先生、薬理学松本直樹先生、病理学(診断病理) 高木正之先生、整形外科学仁木久照先生、耳鼻咽喉科学肥塚泉先生の5名に名誉教授の称号が授与されました。

授与式では、明石勝也理事長と北川博昭学長より、感謝の意を込めて賞状と記念の盾が贈呈され、ご退任後3カ月ぶりに来学された先生方からは、時折懐かしさが垣間見え、終始笑顔あふれる和やかな雰囲気の授与式となりました。

名誉教授となられた先生方におかれましては、今後も本学の成長を温かく見守り、ご指導を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

人事課 斎藤 仁



前列左から仁木久照先生、舟橋利也先生、高木正之先生、肥塚泉先生、松本直樹先生
後列左から北川博昭学長、明石勝也理事長

受賞・表彰

令和6年度医学部成績優秀者顕彰
および令和7年度学業成績等優秀学生奨学金授与式

去る、10月10日(金)の昼休みに、顕彰および授与式が執り行われました。

多くの同級生や先輩、後輩、教職員が見守るなか、北川博昭学長、加藤智啓医学部長より賞状と副賞(図書カード1万円)が受賞者に授与され、ギヤラリーからは惜しみない賛辞が贈られました。

各選考については、成績優秀者は令和6年度学年末成績の結果に基づ

き各学年の成績上位者5名が選出されました。また、1~4年次を通じて、特に成績が優秀であった第5学年の1名に、令和7年学業成績等優秀学生奨学金として100万円が給付されました。

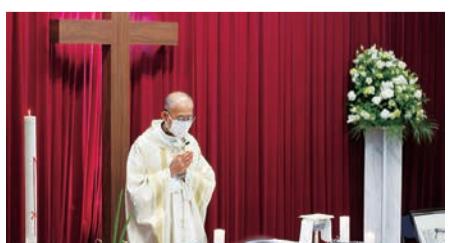
次年度も、医学部生のさらなる頑張りに期待しています。

教学部 学務課 佐藤 剛



創立者等追悼ミサ

10月3日(金)、本学の創立者である明石嘉聞博士をはじめ、すでに帰天された多くの教職員の方々を偲び、「創立者等追悼ミサ」が執り行われました。会場の医学部本館6階大講堂には、役員・教職員約50名に加え、今年度入学した医学部生および看護学生約220名が参列しました。参列者一同は、本学の発展に尽力された先達への感謝を捧げるとともに、今後のさらなる発展に向けて新たな誓いを立てました。



司式：小田武彦神父

また、ミサ終了後には、常勤理事による創立者の墓参りが行われました。今回は、2025年6月の役員改選後、初めての墓参となり、当日は、常勤理事一人ひとりが創立者の遺徳を偲び、これまでの歩みに感謝の意を捧げるとともに、今後のさらなる事業の発展および教職員の健康と安全を祈念いたしました。

創立者の志を改めて胸に刻む、厳かな一日となりました。

総務部 奥島英明



常勤理事10名全員による参拝

受賞・表彰

—ダイバーシティ・キャリア支援センター—

ダイバーシティ研究助成金、
ダイバーシティ表彰(学術分野)について

ダイバーシティ・キャリア支援センター 事務局

2025年度の採択者・受賞者が決定しました。皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。

2025年度 ダイバーシティ研究助成金 採択者一覧

氏名	所属	職位	研究課題名	助成金額
越川 拓郎	微生物学	助教	HRM解析による白癬菌の同定とテルビナフィン低感受性遺伝子変異の同時検出法の確立	40万円
伊東 祐美	麻酔学	助教	安全かつ持続可能な腹膜環流を用いた肺代替療法の確立に向けた至適環流液の同定と肺保護換気の実践	30万円

2025年度 ダイバーシティ表彰(学術分野)受賞者一覧

氏名	所属	職位	掲載雑誌	論文表題
藤田 陽子	腎臓・高血圧内科学	助教	Kidney International Reports	Clinical characteristics of nephrin autoantibody-positive minimal change disease in older adults
古屋 直樹	呼吸器内科学	講師	Cancer Medicine	Arterial thromboembolism in patients with advanced lung cancer: Secondary analyses of the Rising-VTE/NEJ037 study
新井 裕之	臨床腫瘍学	講師	Journal for ImmunoTherapy of Cancer	Role of CD47 gene expression in colorectal cancer: a comprehensive molecular profiling study



後列：左から伊野副センター長、北川学長・センター長、加藤医学部長、呼吸器内科学 嶽下主任教授

前列：左から腎臓・高血圧内科学 小波津助教(藤田助教代理)、呼吸器内科学 古屋講師、臨床腫瘍学 新井講師

腎臓・高血圧内科学 藤田助教(当日ご都合によりご欠席のため、別途お写真を掲載いたしました)



継灯式

看護専門学校 10月31日

「誠実な看護師」を目指して

看護専門学校 1年
藤岡 真央



看護師という専門職を志して入学した49回生の私たちは、令和7年10月31日(金)に継灯式を迎えることができました。私たち49回生にとって、この神聖な灯を受け継ぐ儀式は、単なる通過点ではなく、看護の道を歩む者としての「覚悟」と「使命」を新たに胸に刻む、人生の大きな節目となりました。

この聖マリアンナ医科大学看護専門学校で勉学に励んできた半年間は、多岐に渡る知識を培い、「看護職を務めるものとしての姿勢」を探求する日々でした。看護学概論では「看護とは」という根源的な問いと向き合い、自身の看護観・理想の看護師像を見据え、看護師になる第一歩を歩み始めました。また、基礎看護学では科学的根拠を追求した考え方をもとに、安楽な援助を実現するために必要な技術と、その背後にある深い配慮を実践的に学びました。さらに、基礎医学の講義では適切なアセスメ

ントをするために必要な、人体の機能や役割について学び、患者の看護を考える上で基礎的な土台を築き上げきました。

49回生は「ナイチンゲールの志を胸に、人々の尊厳を守り、『生命を尊重する看護』を実践することを誓います。常に学び続け、知識と技術を磨き、思いやりの心をもって看護にあたります。仲間と共に支え合い、患者さんに寄り添う『誠実』な看護師となることを誓います。」と宣誓しました。ナイチンゲールの後継者の1人として、「覚悟」と「責任」の灯火を受け継いだ私たちは、この灯を絶やすことなく、日々の学習に向き合う姿勢を見直し、弛まぬ自己研鑽を続け「誠実な看護師」を目指していきたいと思います。

継灯式を経て、私は看護師として生命を尊重する看護を実践していくと強く感じました。様々な学問を経て看護の道を進んできた唯一無

二の強みを活かし、複雑な背景を持つ一人ひとりの患者に寄り添う「誠実な看護」を実現していきたいと思います。そのためには、本日誓った「常に学び続け、知識と技術を磨く」という志を持ち、これから的生活を過ごしていきたいと思います。



第68回東日本医科学生 総合体育大会(夏季)

サッカーチーム

サッカーチームは現在、プレイヤー19人、マネージャー16人の計35人で活動しています。関東医学部学生春季リーグでは3部に所属しており、今年度は2位という成績を収めました。惜しくも2部昇格はならず、東医体ではGL敗退となってしまいましたが、次年度の春季大会にむけて着実に力をつけており、上位リーグ昇格を目指し日々の練習に励んでいます。

活動日は火・木・土・日曜日の週4日で、平日は主に基礎練習や戦術確認、週末は実戦形式の練習や対外試合を行っています。学業との両立を大切にしつつ、真剣に競技を取り組める環境が整っています。初心者から経験者まで幅広いメンバーが在籍しており、お互

いに切磋琢磨しながら成長しています。また競技面だけでなく、仲間との交流やチームワークも大切にしています。練習中では学年間の隔たりがなく、互いに高め合える関係性を大切にしています。

競技力の向上はもちろんのこと、礼儀や協調性といった人間的成长も重視した運営を心がけています。今後も大会での更なる飛躍を目指し、励んで参ります。



水泳部

水泳部主将3年松井です。今年度の東医体は、8月6日(水)・7日(木)に東京アクアティクスセンターにて開催されました。私たち水泳部は27名で挑み、女子総合7位という成果を収め、個人・リレーを合わせて8種目で入賞を果たすことができました。入賞に届かなかった部員も、それぞれが自己ベストを更新し、仲間の声援に背中を押されながら力を出し切ることができました。

会場となったのは、東京オリンピックの舞台でした。世界のトップ

スイマーが泳いだコースに自ら飛び込むことは、私たちに特別な高揚感を与えてくれました。歓声と拍手がより大きく響き、会場全体が熱気に包まれていきました。

また、6年生の2人にとっては最後の大会となりました。閉会式後の卒業セレモニーで語られた2人の言葉に、寂しさや共に過ごした時間への感謝から多くの部員が涙を流しました。

初心者も多い私たちにとって、東医体の舞台は大きな挑戦であり、かけがえのない経験となりました。この経験で得た学びと絆を胸に、来年の東医体に向けて、より一層練習に励みたいと思います。

最後になりましたがOB・OGの先生方をはじめ、保護者の皆様方、数多くの方々より、多大なるご声援・ご厚意をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



バレー部

バレー部は、男子部24名・女子部38名、合計62名で活動しております。年々部員の数も増えており、バレー部経験者は男子部5名、女子部9名とほとんどの部員が初心者であります。学年、男女の垣根を越えて仲が良く、賑やかに活動しております。

2025年度の東医体は、8月4日～8日で行われました。結果は男女共に予選敗退となりましたが、チーム一体となり、各ポジ

シヨンの役割を果たしながら奮闘することができました。チーム一同東医体という大舞台で練習通り行う、力を発揮するというものがいかに大変であるかを身に沁みて感じました。これからは心身共に鍛え、チームで支え合いながら強くなろ

うと誓いました。初心者が多く、まだ至らない点が多くはありますが、今後強くなれるよう、全員で切磋琢磨し、質実剛健なチームになれるよう精進していきます。

最後になりますが、OB・OGの先



バドミントン部

バドミントン部です。本部活では6年生が5名、5年生が11名、4年生が7名、3年生が2名、2年生が10名、1年生が4名の合計39名の部員で構成されております。先日行われました東医体では満足のいく結果を残せた部員、または満足のいく結果を残すことのできなかった部員がいるか

とは思いますが、それぞれの部員が目標を持って試合に取り組み、貴重な経験をつむことができました。加えて、女子団体戦ではBest4という結果を残し、全医体への出場が決定いたしました。日頃よりご支援、ご声援してくださる方々があつてこそ



の結果であると考えます。東医体によって得られた経験を活かし、今後行われる大会に向けてより良い結果を残していくよう、部員一同努力していく所存でございます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ソフトテニス部

ソフトテニス部は現在、部員約50名が在籍しており、大所帯ながら学年や男女の垣根を越えて仲の良い雰囲気の中、日々の活動を行っています。春・秋のリーグ戦や東医体を大きな目標とし、週1.5回の練習を重ねながらお互いに切磋琢磨しています。2025年8月4日(月)から8日(金)にかけて軽井沢で開催された東医体では、これまでの練習の成果を発揮し、多くの部員にとって貴重な経験となりました。個人戦では四回戦まで進出したペアもあり、来年度以降のさらなる活躍に期待が持てる結果となりました。特に次回の東医体団体戦では、上位リーグ進出を大きな目標として掲げ、部員一同さらなる成長を目指して練習に励んでまいります。また、試合経験を重ねる中で部



員全体の競技力も着実に向上し、勝利を収める選手も少しずつ増えてきました。各自が成果や課題を持ち帰ることとなりましたが、その経験を共有し合いながら、部員全員で力を高め合い、より強いチームを築いていきたいと思います。最後になりましたが、日頃からご支援くださるOB・OGの先輩方、そして応援に駆けつけてくださった保護者の皆さんに、心より感謝申し上げます。

バスケットボール部

8月、長野県ホワイトリングにて東医体が開催され、本校からは女子11名、男子13名が出場しました。

今年度は春から新しいメンバーでのチームがスタートし、東医体に向けて基礎練習や連携強化に力を入れてきました。限られた時間の中でも、互いに声を掛け合いながら練習を積み重ね、大会を迎えることができました。

女子バスケットボール部は、バスト8進出をかけた試合で最後まで一進一退の攻防を繰り広げましたが、惜しくも1点差で敗れてしまいまし

た。あと一歩届かなかった悔しさを胸に、秋の大会ではこの無念を晴らせるよう、さらに力をつけていきたいと考えています。男子バスケットボール部は、一回戦・二回戦ともに勝利をつかむことはできませんでしたが、全員が最後まで諦めずに全力を尽くし、練習の成果を発揮することができました。試合を通して得た課題や経験は、今後の成長につながる大きな糧となりました。

次の秋大会には、医学部生だけでなく看護学生もプレーヤーとして参加します。東医体で培ったチーム力に、看護学生のエネルギーが加わることで、より一層勢いのあるチームとなることを期待しています。

男女バスケットボール部とともに、夏の厳しい練習を乗り越えて得た团结力を武器に、今後も努力を重ねてまいります。応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



第68回 東日本医学生 総合体育大会(夏季)

硬式テニス部

硬式テニス部では、主に男子部は週3日、女子部は週2日の練習に励んでおります。昨夏より大学からテニスコートが無くなつたため、外部のテニスコートを取つて練習しております。高いテニスコート代なのですが、OBOGからの寄付もあり、なんとかやっております。初心者から経験者まで様々なレベルの部員が所属しており、日々楽しみながら切磋琢磨することで個々のスキルアップ、またチーム力の向上を目指して活動しています。結果を残せるよう意識を高く持ち、練習メニューに取り組んでいます。自分のことだけではなく、お互いのプレーに対してアドバイスをすることでチームメイトとして交流を深めています。

東医体では、男子部は1回戦敗退でしたが、女子部は準優勝という結果を出すことができました。また、メリハリを持つことも重要だと考え、普段はふざけ合い笑い合い、練習は真面目に取り組む。それにより、チームとして成長していると思います。男女とも、来年はさらにより結果が出せるように、日々精進してまいります。



ゴルフ部

私たちゴルフ部は、この夏8月4日(月)～8日(金)に開催された東医体において、女子個人優勝、女子団体優勝、そして男子個人8位入賞という成績を収めました。酷暑の中でのプレーや難しいコースコンディションにも負けず、日頃の練習で培つた技術と精神力を存分に發揮できたことが、今回の結果につながったと感じています。

普段は週2回の練習場での部活に加え、月例ラウンドや合宿を通して、約60名の部員が互いに切磋琢磨し合い、技術面・体力面・精神面のすべてを磨いてきました。ゴルフ部には初心者から経験者まで幅広いレベルの部員が所属しており、先輩が後輩に丁寧に教えるという形で部活を行なっております。細かいルールやマ

ナーの多い競技ですが、学年を超えたつながりを活かし、ゴルフの基本から応用までを一歩ずつ学び、実践を重ねています。

今回の東医体は、私たちにとってこれまでの努力を証明する場であると同時に、新たな課題や目標を見つける機会になりました。この経験を糧に、部員一同さらなる技術向上を目指し、来年はより高い舞台での活躍を誓います。



陸上競技部

私たち陸上競技部は、男子5名、女子11名で活動しています。他大学のチームと比べて少人数であり、大学から離れた練習環境ではありますが、試合で活躍する選手も在籍しています。他大学の学生との合同練習や試合を通して交流を深めるとともに、各々の競技力向上にも繋げています。これからも少人数ならではの結束力を大切にし、他大学との交流を活かしながら、部員一人ひとりが目標に向かって活動していきます。

最後に、2025年8月10日(日)～11日(月)に千葉県総合スポーツセンターで第68回東日本医学生総合体育大会が開催されました。マネージャーの支えもあり、悪天候の中でも選手全員が全力を尽くすことができました。今後とも陸上競技部への温かい応援をよろしくお願ひいたします。



今年度の東医体の入賞結果は以下の通りです。

男子

- | | |
|------|-----------------------------|
| 走幅跳 | 中野瑛心 (4学年)
6m 51cm 3位入賞 |
| 三段跳 | 中野瑛心 (4学年)
13m 66cm 3位入賞 |
| 女子 | |
| 800m | 西山千尋 (2学年)
2:37.96 7位入賞 |
| 円盤投 | 岸本果穂 (5学年)
28m 61cm 準優勝 |

硬式野球部

硬式野球部は、今年度から新入生としてプレーヤー2名、マネージャー3名を迎え、さらに活気あるチームとなりました。少人数ながら一人ひとりが持てる力を最大限に發揮し、全員で勝利を目指して取り組んできました。その結果、春季リーグ戦では2部リーグ優勝を果たし、念願の1部昇格を掴むことができました。これは全員が心をひとつにして挑んだ努力の結晶であり、大きな自信となりました。

一方で、東医体では5対6というわずか1点差で敗れ、悔しさと無念が残る大会となりました。この経験を確実に次への糧とし、来年度は「1



部残留」と「東医体上位入賞」を必達の目標に掲げ、仲間とともに厳しい練習を乗り越え、さらに強いチームを築いていきたいと思います。

今後とも温かいご声援をよろしくお願いいたします。

準硬式野球部

準硬式野球部は、部員33人の部活です。

練習は週3(火・木・金)で、場所は外部の球場、体育館、マリアンナグラウンドで行っています。試合は春リーグ、東医体、秋リーグがあり、それらに向けて練習しています。

準硬式野球部の特徴として、2つ挙げられます。1つ目は野球をやつたことがない人が多いということです。大学から野球を始めるのは勇気がいるのですが、準硬式野球部は大歓迎です。基礎から部員みんなで練習しています。

2つ目は先輩と後輩、プレイヤーとマネージャーの仲がとてもいいということです。練習での交流だけでなく、BBQやスノーボード旅行などレクにも力をい



剣道部

剣道部は部員数が19名で、週3回の稽古により技術・心身の向上に努めています。今年度の東医体では男子個人で部員2人がベスト32位という成績を収めました。普段の稽古では、大学から剣道を始めた部員に対して経験者が丁寧に指導するだけでなく、経験者同士も互いに切磋琢磨しています。顧問やOB・OGの先生方も稽古にいらして指導して

くださることもあり、大変お世話になっております。他大学の剣道部との練習試合や合同稽古を定期的に実施しており、多様な相手との対戦を通じて実戦経験を積み重ねています。稽古中は真剣に取り組む一方で、部員同士の雰囲気は和やかで休憩時間には談笑をしたり、部活後にはご飯を食べに行くこともあります。剣道が好きな仲間が集い、先輩後輩の絆を大切にする剣道部は、互いを支え合う温かい雰囲気の中で日々成長を続けています。



OB・OGの先生方への感謝と共に部全体の更なる向上に向けて稽古に励んでいきたいと思います。

第68回東日本医学生 総合体育大会(夏季)



卓球部

卓球部は、男子7名・女子13名の計20名で活動しており、週2回の練習を基本としております。普段使用している第2アリーナは専用卓球場となっており、最近では昼夜みや本練習日ではない日に自主練習へ励む部員も多く、技術向上の環境が整っています。練習の際は真剣に取り組みつつ、時には部員同士で遊びに出かけるなど、オンとオフのメリハリがはっきりした雰囲気の良い部活です。

本年度の東医体は、8月13日(水)から15日(金)にかけて埼玉県所沢



市民体育館で開催されました。試験直前という厳しい日程ではありましたが、部員一人ひとりが練習を積み重ね、本番で力を発揮しました。その結果、男子・女子シングルスとともに3回戦進出、さらに女子シングルスでは5回戦進出(ベスト32)を果たすことができました。

昨年度より部員数も増え、個々のレベルも着実に向上しており、部全体として成長を実感しております。これは恵まれた環境、そして何よりもOB・OGの先生方のご支援と心

強いサポートのおかげであると感じております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

より大きく活発な部へと発展していくけるよう、部員一同努力してまいりますので、宜しくお願いします。



押忍、失礼いたします。空手道部です。空手道部は現在、毎週火・木曜日の2回活動しています。部員は6年生1名、5年生1名、4年生2名、3年生3名、2年生5名、1年生7名の19名で、流派は昭靈流です。

2025年8月に開催された東医体において、女子団体形が3位入賞を果たしました。これも、日頃より温かく見守ってくださる師範をはじめとするOB・OGの先生方と、時に厳しく時に優しくご指導くださるコーチのご支援あってのことです。心より感謝申し上げます。

空手道部はここ数年で部員数を順調に増やし、かつての活気を取り戻しつつあります。またその絆も、年々



深まっていることを実感しております。そんな我々の次なる目標は、11月の女子大会入賞、そして12月の昇段昇級審査の全員突破です。これからも、お世話になるすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、部員同士で切磋琢磨し、一人一人が己のベストを更新し続けられるよう、稽古に励んでまいります。



ヨット部



ヨット部は、江ノ島ヨットハーバーにて週に一度の練習を重ねながら、技術と精神力を磨いてまいりました。ヨット競技は自然との駆け引きが求められる競技であり、風を読む力や艇の操作技術に加え、仲間との連携や集中力が大切です。日頃の限られた練習時間を有効に活用し、着実に力を蓄えてきました。

今夏の東医体では、その成果が実を結び、総合成績で第12位という結果を収めることができました。これは例年よりも順位を大きく伸ばすことができた成果であり、部員一同にとって大きな自信となりました。厳しい気象条件の中でも冷静に判断し、安定した走りを続けることができたのは、日頃の江ノ島での地道な練習の賜物です。

また、大会を通じて他大学との交流も深まり、互いに技術を学び合うことで新たな課題や目標を見出すことができました。今後はさらにフィジカルと戦術の両面を強化し、次年度はさらに上位を目指して努力を続けてまいります。ヨットというスポーツを通して挑戦する心と友情を大切にし、活動を続けていきます。

聖マリアンナ医科大学院内ラジオ「マリラジ」配信開始 —マリアンナの魅力を“声”でお届け、YouTubeでも発信強化—

聖マリアンナ医科大学では、病院や大学の魅力やさまざまな活動を発信し、患者さん・ご家族、地域のみなさまにより身近に感じていただくことを目的とし、院内ラジオ「マリラジ」の配信を開始いたしました。



マリラジ
マリラジ 公式キャラクター

実際の収録の様子



モニターには、ポスターと収録の様子がリアルタイムで映し出されています

《聴取方法》

1. YouTube

チャンネル名：

【公式】聖マリアンナ医科大学院内ラジオ「マリラジ」

2. マリアンナアプリ

「マリアンナビ（お役立ち情報）」内にあります「マリラジ」ボタンをクリックしますとYouTubeへ遷移します。

《出演者募集》

番組にご出演いただける教職員のみなさまも募集しています。

◇「医療への想いを伝えたい」

◇「診療科や業務の取り組みを紹介したい」

◇「学生や地域の方々にメッセージを届けたい」

などなど、どんなテーマでも大歓迎です。

ぜひ一緒に、マリアンナの魅力を発信しましょう！

《お問い合わせ先》

院内ラジオワーキング（窓口：企画調査課）

mariradi@marianna-u.ac.jp



聖マリアンナ医科大学

Colors, Future!
いろいろ、未来。
川崎市

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

—創立50周年記念事業募金・クラウドファンディングご支援の御礼—



現在進めております菅生キャンパスリニューアル計画におきまして、2025年1月6日より外来棟・エントランス棟の運用を開始いたしました。

本整備にあたり、創立50周年記念事業募金（2024年9月終了）およびクラウドファンディング「快適な待合環境を患者さんに。病院リニューアルプロジェクト！」（2025年11月終了）におきまして、多大なご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

今回の整備により、大学病院は先進的かつ良質な医療の提供と、より充実した医学教育の場を実現しております。今後は外構整備を進め、2026年秋のグランドオープンを予定しております。

また、本学では次なる発展に向け、新たな募金事業「みらい募金」を開始いたしました。教育・研究のさらなる充実と、地域に根差した高度医療の提供を未来につなぐ取り組みを進めてまいります。

教育研究支援募金

※お申し込み時に、掲載「不可」又は「意思表示のなかった方」につきましては、芳名は掲載しておりません。
掲載をご希望される場合は、お手数ですがお問合せ先までご連絡ください。

募金目的：
教育研究活動への支援を目的とした募金

2024年度下期から2025年度上期（2024年11月1日から2025年10月31日）の寄付受入状況は、97,856,000円／42件となっております。皆様からの多大なるご支援に厚く御礼申し上げますとともに、ここにご芳名を掲載させていただきます。

◆寄付者のご芳名【法人】

医療法人社団永陽会
医療法人社団桜栄会
株式会社マリアンナ・ワールド・サービス
旧第三内科 貴和会
聖友インシュアランスアンドリース株式会社
戸田建設株式会社横浜支店

◆寄付者のご芳名【個人】

岡田 裕二	児山 新	根本真一郎	森本 大
小黒 清貴	添田 和俊	野田 修造	山村 基吉
上木原賢一	辻 祐一郎	長谷真裕子	脇口 宏之
久保寺宗成	露木 良治	松山 年男	
後藤 国彦	鳴戸 美和	三森 謙一	

快適な待合環境を患者さんに。病院リニューアルプロジェクト！

募金目的：
創立50周年記念事業の1つである
菅生キャンパスリニューアル計画への支援

2025年9月17日より実施した聖マリアンナ医科大学病院初のクラウドファンディングは同年11月29日に終了いたしました。期間中は、450名超の皆様から目標を上回る38,088,694円のご寄付と多くの温かい応援を賜りました。皆様からの多大なるご支援に厚く御礼申し上げますとともに、ここにご芳名を掲載させていただきます。

◆寄付者のご芳名【法人】

医療法人社団栄和会
医療法人社団慶愛 慶愛病院
医療法人社団健栄会 宮前平健栄クリニック
医療法人社団健栄会 宮前平第2クリニック
医療法人社団健由会 すずき内科クリニック
医療法人社団滋恵会 安藤整形外科
医療法人社団総生会 麻生総合病院
医療法人社団緑成会 横浜総合病院
医療法人眞誠会 久保医院
岡野内科医院 岡野 敏明
カクタス・コミュニケーションズ株式会社
株式会社アニマルケア
株式会社ウェルネス ひばりの森訪問看護ステーション
株式会社シグマスタッフ 町田支店
株式会社フロワーショップヤマ
株式会社ほいっぽ 佐久間一嘉
株式会社みずほ銀行武藏小杉法人部
黒須内科クリニック 黒須 知二
桜クリニック 岡野 公一
聖医会宮城支部
聖マリアンナ医科大学病院 外来看護師一同
タケダ株式会社
タケダシステムズ株式会社
タケダパートナーズ株式会社
等々力園 青木 恒
長瀬クリニック 長瀬 良彦
長瀬ランダウア株式会社
福西内科クリニック 福西 康夫
富士通株式会社
ヤンマーエネルギーシステム株式会社
YMS（代々木メディカル進学舎）医学部専門予備校
ワタキューセイモア株式会社

◆寄付者のご芳名【個人】

青木 康之	石亀 勝	太田口里沙子	勝田 友博
青山 敏之	石川 智子	大坪 毅人	加藤 明世
赤坂 裕子	石橋 祐記	大場 武雄	門野 岳史
赤澤 貴士	磯貝 晶子	大畠 友樹	金本 大成
赤澤 努	市村 幹男	大林 樹真	上嶋 亮
明石 了	伊藤 薫	大堀 晃裕	川本 久紀
明石 嘉浩	伊藤 隆洋	大矢 直子	木内 茂之
明石 涼子	伊藤 琢也	大矢 美佐	菊池 千歌
秋澤 暢達	伊藤 立子	岡崎 大武	岸 忠宏
浅野 耕	井上 正範	岡田 幸法	木田 圭亮
浅利 翔平	井内 正人	岡野 樹	北川 智介
浅利 佑紗	今西 好正	小川 公二	北川 博昭
足利 光	岩端 秀之	小川 理絵	北中 陽介
麻生健太郎	植村 博之	荻原 大地	木村 聰子
麻生 雅子	植村 伶央	荻本 剛一	木村みどり
阿藤 晃一	鵜澤 正彦	長田 尚夫	桐山 雅通
阿部佳代子	丑丸 秀	長田 尚彦	草刈百合子
安倍泰佳奈	運天 智子	小澤 緹子	楠田 理佳
天野 徹也	榎本さやか	小野 泰輔	國島 友之
荒木 圭	榎本 武治	小野田恵一郎	國島 広之
有馬 正貴	徳西 誠	尾本 聰	國田 大輔
安藤 大輔	大岡 志穂	加久翔太朗	久保寺宗成
飯田 文子	大川 裕子	梯 龍洋	熊井 健得
五十嵐 豪	太田 智彦	風間 晓男	倉田 大和
井澤 和大	太田 晴雄	片山 晋伍	棄田 真吾

桑田 千尋	志賀 功	平 容子	田邊 康宏	信岡 祐彦	藤巻 道孝	三木 桂子	山口 典子
桑原 貴子	志賀 益美	高木 泰	田荷 義久	橋本 信行	布施 恵理	三木 透	山口 雅代
黄 世捷	島田 勝利	高木 芳子	塚田 夏菜	橋本 裕美	古田 繁行	水越 慶	山崎 哲
小塚 順子	島津 幸二	高田 和志	寺島 美知男	長谷川 夏子	星 恵子	水越 潤	山田 俊輔
後藤 弘子	清水 富士雄	高田 三恵子	寺島 恵子	長谷川 洋	星 結花子	水越まゆみ	横田 隆夫
小林紫央里	清水 泰子	高田 光敏	土至田 宏	長谷川 和夫	堀越 泰世	三谷原 啓	吉尾 彰高
小林 博雄	下平 秀文	高野 誠	富澤 札子	長谷川 瑞子	黄 子嬢	宮川 恵子	吉松 信彦
齋藤 陽	白石 真	高橋 歩	鳥居 実沙	花井 美佐子	本間 末子	三宅 良彦	米山 喜平
齊藤 修	陣内 祐二	高橋 英二	中川 敦夫	林 芳子	前原 善昭	三吉 智子	若色 宏悦
齊藤 道也	新明 卓夫	高橋 重明	長瀬 良彦	速水 亮介	松井 悅子	村上 真理子	渡邊 昭夫
坂根 健志	菅原 育子	高橋 秀徳	中原 広明	俵道 淳	松浦 健太郎	村松 隆志	渡邊ハツイ
櫻井 丈	菅原 一朗	高橋 美智子	中原 雄太	開 和史	松岡 素弘	持田 正幸	渡部 秀憲
櫻井 真理	鈴木 淳子	滝澤 將人	中村 正	平田 和明	松永 久美	望月 篤	
櫻田 勉	鈴木 桂子	瀧島 勇樹	繩田 寛	福田 護	松元 淳一	本吉 恵子	
佐々木竹夫	鈴木 健	武永 美津子	西川 徹	藤井 建多	眞鍋 周太郎	森田 淳一	
佐々木信幸	鈴木 欣子	武山 廉	西巻 博	藤澤 正則	真部 保信	八ヶ代 万智子	
佐藤 直子	須田 直史	蓼原 太	二山 晃行	藤田 圭子	三浦 崇幣	安井 寛	
佐藤良太郎	隅野 俊亮	田中 修	根岸 賢一	藤田 昌弘	民上 真也	矢野 晶子	
佐野 文明	瀬尾 圭亮	田中 宏	納田 和博	藤田 泰之	三上 大志	矢原 和子	

聖マリアンナ医科大学 みらい募金のご案内

本学は創立以来、「キリスト教的人類愛」を基盤に、「生命の尊厳」を重んじる医療人の育成に取り組んでまいりました。

医学・医療を取り巻く環境が大きく変化する中、教育・研究の充実と、学生が安心して学べる環境整備がますます重要となっています。

このたび、本学では未来を担う医療人の育成、研究の推進、地域医療のさらなる充実を目的に「聖マリアンナ医科大学みらい募金」を創設しました。

奨学金の拡充、教育・研究環境の整備、病院施設や診療体制の充実など、将来に向けた幅広い取り組みを支える大切な財源となります。

本学の発展と未来の医療人育成のため、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付のお手続き

聖マリアンナ医科大学みらい募金は以下の方法でお手続きができます。

①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

※払込取扱票をご希望の方は財務部寄付募集推進室までお問い合わせください。

②インターネットでのお申し込みによるクレジットカード・ペイジー等での決済

お問い合わせ先

学校法人 聖マリアンナ医科大学 財務部寄付募集推進室
TEL: 044-977-8111 (代表) (内線 3981、3973)
E-mail: kifusuishin@marianna-u.ac.jp



詳細はホームページをご覧ください

マリアンナみらい募金

検索

臨床研修センターだより

[2026年度臨床研修医マッチング結果]

(10月23日(木) 14時発表)

	プログラム名	定員	マッチング結果 (内定者)	(うち他学出身)
大学病院	基本	37	37	(7)
	小児科重点	2	1	(0)
	産婦人科重点	2	0	(0)
西部病院	西部病院	6	6	(3)
多摩病院	多摩病院臨床研修	10	10	(7)
法人全体		57	54	(17)

卒業判定、国家試験合格発表により定員が空い場合は、追加募集を行ってまいります。

法人内3病院が基幹型臨床研修病院として各病院の特徴をだして募集できることは大きなメリットです。今後は各病院群の構成の中で研修医の受け入れや出向により、法人内3病院を知る研修医を増やすことが重要だと考えます。

たった2年間を過ごす場ですが、貴重で大事な2年間と捉えて頂けるよう、環境整備に努めてまいります。

[臨床研修センタートピックス]

◆大学病院:

ラジオ出演 夢カナ聖マリ医大病院ラジオ TOKYO FM グループ「MUSIC BIRD」とのコラボ企画

▷樋脇文音先生【研修医1年目】(写真1左)

放送日: 2025年11月1日(土)および8日(土)

▷宇井一真先生【研修医2年目】(写真1右)

放送日: 2025年11月15日(土)および22日(土)

◆西部病院:

2025年11月8日(土)西部病院初の健康まつりを開催(写真2)

▷研修医は、消化器・一般外科の先生と一緒に「フューチャードクタースクール」で、腹腔鏡手術や縫合の体験コーナーを担当。また、横浜消防と連携し、参加者

にAED操作や心肺蘇生の指導も行いました。

◆多摩病院:

2025年11月7日(金)と11月10日(月)に研修中間報告会を開催(写真3)

▷臨床研修スタートから現在までを振り返り、自由なテーマで発表を行いました。

(写真1)



(写真2)



(写真3)



[臨床研修第三者評価(JCEP)受審情報]

◆大学病院: 2025年12月12日(金) 初受審

◆西部病院: 2026年12月3回目の訪問受審

◆多摩病院: 2026~2027年度受審に向けて準備中

附属病院 施設だより

❖西部病院❖

地域と歩むための健康まつり

2025年11月8日(土)に開催した「西部病院健康まつり2025」は、当院のスタッフが抱く「もっと地域の方々と身近につながりたい」という熱い想いを形にしたものであります。私たちは、病院が病気を治すだけの場所ではなく、地域の皆さんの健康を支え、守るパートナーでありたいと考えています。この理念を基に、当イベントは、病院の機能を地域にご紹介するとともに、未来の医療人を育成する、二つの柱を軸に構成されています。

健康まつりの目玉の一つである「フューチャードクタースクール」は、将来医療への道を志す若者たちに向けた企画です。中学生を対象とした事前申込制の本企画は、参加者に本格的な医療体験を提供しました。具体的には、腹腔鏡手術体験、電気メス使用体験、そして縫合・結紮体験といった手技のシミュレーションが含まれています。この専門性の高いスクールを指導するため、医師、看護師、研修医といった多数の専門ス



タッフを動員いたしました。修了者には、「修了証」が授与され、次世代の医療人を真剣に育成しようとする当院のコミットメントが明確に示されています。また、体験を通じて医師志望の意欲が「強くなった」とアンケート結果があり、本スクールが進路選択の一助となるという目的を果たしたことがうかがえます。

「バックヤードツアーア」は病院の高度な機能と、それを支えるスタッフの活躍を地域住民に伝えるために企画されました。これも事前予約制でしたが、予想以上の人気で予約枠がすぐに埋まり、増枠をいたしました。見学ルートは、普段立ち入ることのできないエリアで構成し、画像診断部門(CT、血管室)、臨床検査部、薬剤部を巡りました。このツアーを通じて、参加者は、地域医療が最先端の技術と多職種の連携によって支えられていることを肌で感じることができたようです。

さらに、市民の安全意識向上のため、旭消防署協力のもとで行われる「AED・心肺蘇生法体験」や「消防車展示」、旭区社会福祉協議会と連携した「学ぼう!障害疑似体験」も実施しました。

本イベントの開催にあたり、ご協力いただきました関係機関の皆さん、ならびにご参加いただいた地域の皆さんに深く感謝申し上げます。

総務課 遠藤義治

❖プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック❖

乳がん診療地域連携の会

2025年9月12日(金)にホテルモリノ新百合丘にて「第3回乳がん診療地域連携の会」を開催いたしました。今回は、特別講演とパネルディスカッションの2部構成とし、地域の医療関係者の方々76名にお集まり

いただきました。参加者の皆様から「有意義な会であった」とのお声が多数寄せられ、今後の連携強化に向けた大きな手ごたえを感じることができました。

特別講演 「患者さんの負担軽減を目指したこれから乳がん医療」
乳腺・内分泌外科 岩谷胤生 教授

パネルディスカッション 「緩和医療からみた地域連携」

司会：乳腺・内分泌外科 川本久紀 教授

講演①「乳がんの在宅医療と地域連携」

医療法人聖心会 百合ヶ丘駅前クリニック理事長 石井修 先生

講演②「緩和医療からみた乳がんの地域連携」

川崎市立多摩病院 緩和ケア科部長 森山久美 先生

講演③「看護師からみた乳がん患者・家族との関わり」

登戸だんだん訪問看護 看護師 新井朋 先生

聖マリアンナ医大新聞編集委員会 委員名簿

(2026年1月1日現在)

- 委員長 藤谷博人 [スポーツ医学 主任教授]
- 委員 竹村 弘 [微生物学 主任教授]
大平善之 [総合診療内科学 主任教授]
有戸光美 [生化学 准教授]
鈴木昌子 [看護専門学校 校長]

※聖マリアンナ医大新聞は、年2回以上各10,000部を発行し各部署、附属病院、附属施設、名誉教授、聖医会、保護者会、教育関連病院、官公庁他に配布しております。

- 中村孝史 [総務部 部長]
鈴木安鶴子 [教学部 参事]
松岡正代 [西部病院総務課 主幹]
島田久代 [多摩病院総務課 主幹]
清水朋子 [栄養部 部長]

❖多摩病院❖

手作りパンのロッカー販売を開始しました (SDGs推進・福利厚生充実の取り組みとして)

この度、2025年10月9日(木)に、当院におけるSDGs推進および福利厚生の充実を目的として、2階ホワイエ(休憩エリア)に「アルファロッカー」を導入し、ロッカー型食品販売サービスを開始しました。今回の取り組みは、教職員の利便性向上に加え、フードロス削減にも寄与するものであり、持続可能な病院運営の一環として位置づけています。また、本サービスは川崎市内での導入第1号となります。

アルファロッカーとは、株式会社アルファロッカーシステムが提供する無人販売機で、商品が入ったロッカーパン号を選択し、キャッシュレス決済で購入できる仕組みです。利用方法は簡単で、希望するロッカーパン号をタッチパネルで選択し、交通系ICカードやクレジットカードなどで決済するだけで商品を受け取ることができます。これにより、時間の制約で昼食を取れない職員や、夜勤帯に軽食を必要とする職員でも、手軽に食品を購入できるようになりました。

導入の主目的は、「食べたいときに食べられる」環境を整え、教職員の福利厚生を高めることにあります。また、販売される食品には廃棄予定だったパンも含まれており、食品ロス削減や資源の有効活用といったSDGsの観点からも意義のある取り組みと考えております。

今回の販売商品は、地元で人気のベーカリー「パントレプレナー」の手作りパンです。ソーセージパンなど



の惣菜パンから、チョコレート入りの菓子パンまで幅広く取り揃えており、個包装で衛生面にも配慮されています。

今後は、教職員の皆さまからのご意見を踏まえながら、ラインナップや補充方法の改善を行い、より良いサービスへと発展させていく予定です。

パン以外の食品展開や、夜勤時間帯の欠品対策なども検討してまいります。

今回のロッカーサービスが小さな楽しみとなり、働きやすい環境づくりの一助となることを願っております。ぜひ積極的にご活用ください。

総務課 柳田隼斗

あさお区民まつり



2025年10月12日(日)に麻生区役所・麻生市民館で開催された「第43回あさお区民まつり」に乳がん検診啓発団体であるSmile Mamma Marianna(SMM)と協力してブースを出展いたしました。SMMとは「乳がん検診」の大切さを伝え、受診のきっかけを作ることを目的とする医師・看護師・診療放射線技師を中心構成された本学の公認団体です。

当日は、乳がん触診モデル体験コーナー、生活習慣アンケート、乳がん検診案内、子ども向けクイズコーナーを設置し、多くの方々にお越しいただきました。麻生区は長寿日本一の自治体ということもあり、近隣住民の健康に対する意識の高さを感じられる一日となりました。

ブース周辺のステージでは区民の

方々による太鼓、ダンス、チアリーディング、プロレスなど様々な演目が披露され、会場全体が大変な賑わいをみせておりました。

今後も近隣の団体との交流を深めつつ、地域医療に貢献できるよう努めて参ります。

事務室 半澤宏宣

